

中国情勢（東シナ海・太平洋・日本海）

令和 8 年 6 月
防 衛 省

中国の我が国周辺海空域での活動状況

中国軍は海空域での活動を**急速に拡大・活発化**。一方的な活動の**エスカレーション**も。
尖閣諸島周辺のほか、**日本海・太平洋**における活動の定例化を企図しているとみられる。
また、日本海・太平洋における活動は、**今後一層の拡大・活発化**が見込まれる。

太平洋への進出

17年～、太平洋への軍用機の飛行が急増
21年～、無人機が沖縄・宮古島間を頻繁に通過
(22年7月以降、無人機単独での沖縄・宮古島間の通過を確認)
23年～、無人機が与那国島・台湾間を通過

太平洋上で空母「遼寧」から艦載戦闘機(推定含む)が飛行
(18年4月、20年4月、21年4・12月、22年5月・12月、
24年9～10月、25年5月～6月、12月、26年5月)
太平洋上で空母「山東」から艦載戦闘機が飛行
(23年4・9月・10～11月、24年7月・8月・11月、25年4月、6月)
25年6月、空母の**硫黄島より東側**での海域の活動を初めて確認、公表

中露軍事連携

中露艦艇が我が国を周回する形又は我が国周辺で**共同航行**
(21年10月、22年9月、23年7～8月、24年7月、9～10月
25年8月)
中露爆撃機が**長距離共同飛行**
(19年7月、20年12月、21年11月、22年5月、
22年11月、23年6月、23年12月、24年11月、25年12月)

日本海での活動

18年～、中国の海上・航空戦力は対馬海峡の通過を伴う**日本海での活動を一層活発化**

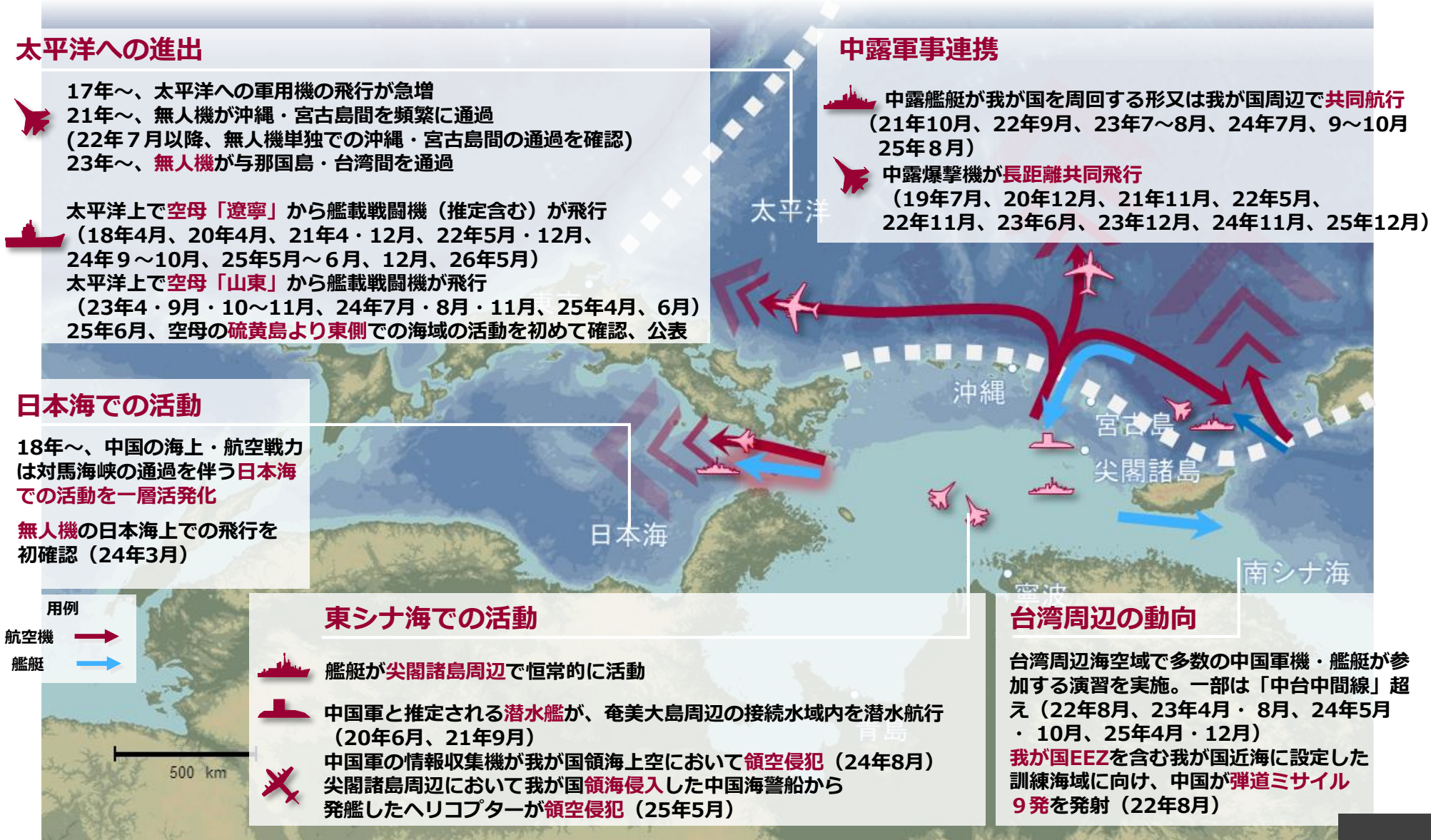
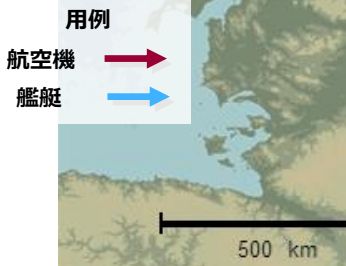
無人機の日本海上での飛行を初確認(24年3月)

東シナ海での活動

艦艇が**尖閣諸島周辺**で恒常的に活動
中国軍と推定される**潜水艦**が、奄美大島周辺の接続水域内を潜水航行
(20年6月、21年9月)
中国軍の情報収集機が我が国領海上空において**領空侵犯**(24年8月)
尖閣諸島周辺において我が国**領海侵入**した中国海警船から発艦したヘリコプターが**領空侵犯**(25年5月)

台湾周辺の動向

台湾周辺海空域で多数の中国軍機・艦艇が参加する演習を実施。一部は「中台中間線」超え(22年8月、23年4月・8月、24年5月・10月、25年4月・12月)
我が国**EEZ**を含む我が国近海に設定した訓練海域に向け、中国が**弾道ミサイル9発**を発射(22年8月)



01 軍事力の強化

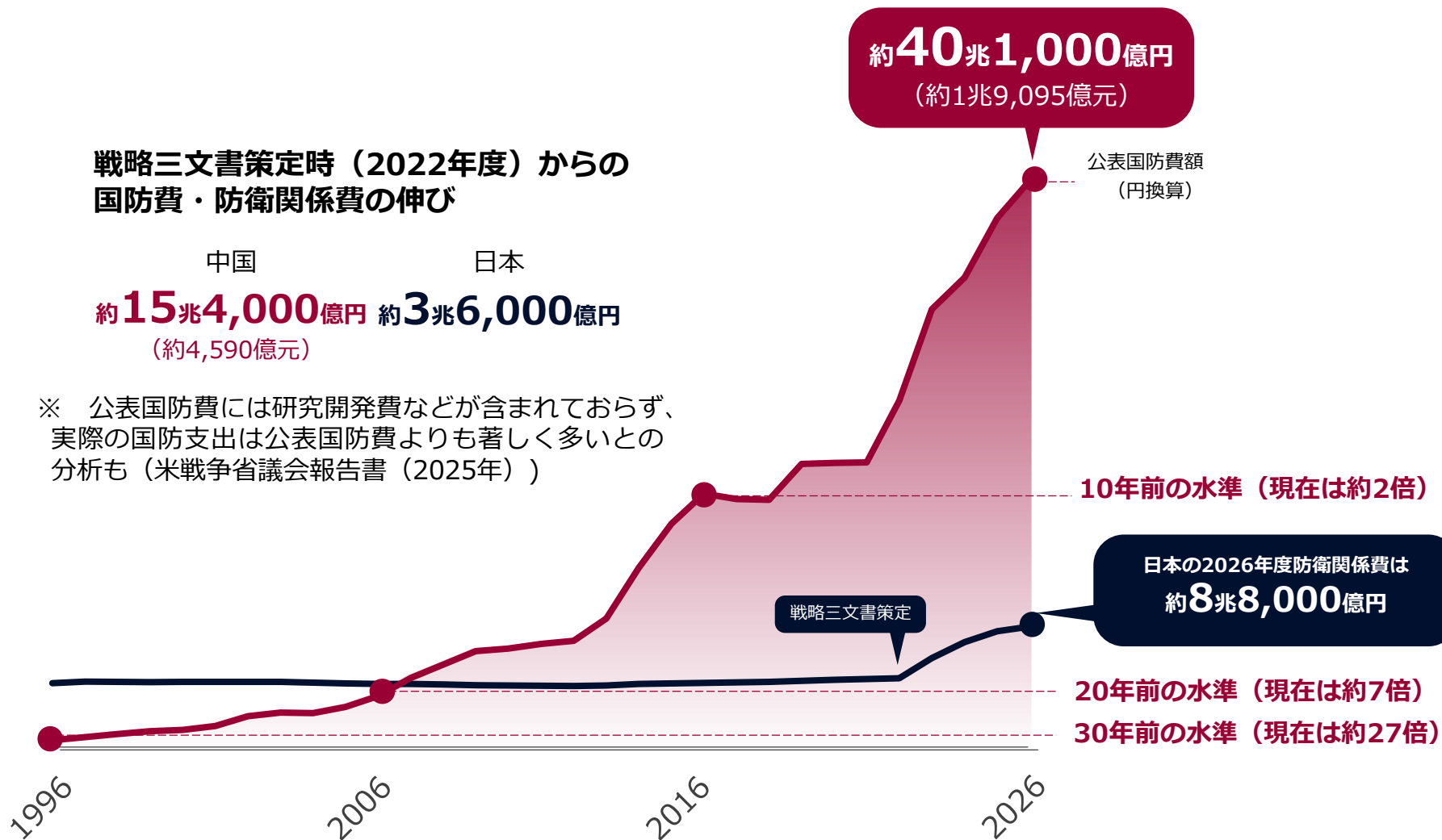
中国の国防費

急速な軍事力の強化の背景に、国防費の**高い水準での増加**。

戦略三文書策定時（2022年度）からの国防費・防衛関係費の伸び

中国 日本
約**15兆4,000億**円 約**3兆6,000億**円
(約4,590億元)

※ 公表国防費には研究開発費などが含まれておらず、実際の国防支出は公表国防費よりも著しく多いとの分析も（米戦争省議会報告書（2025年））



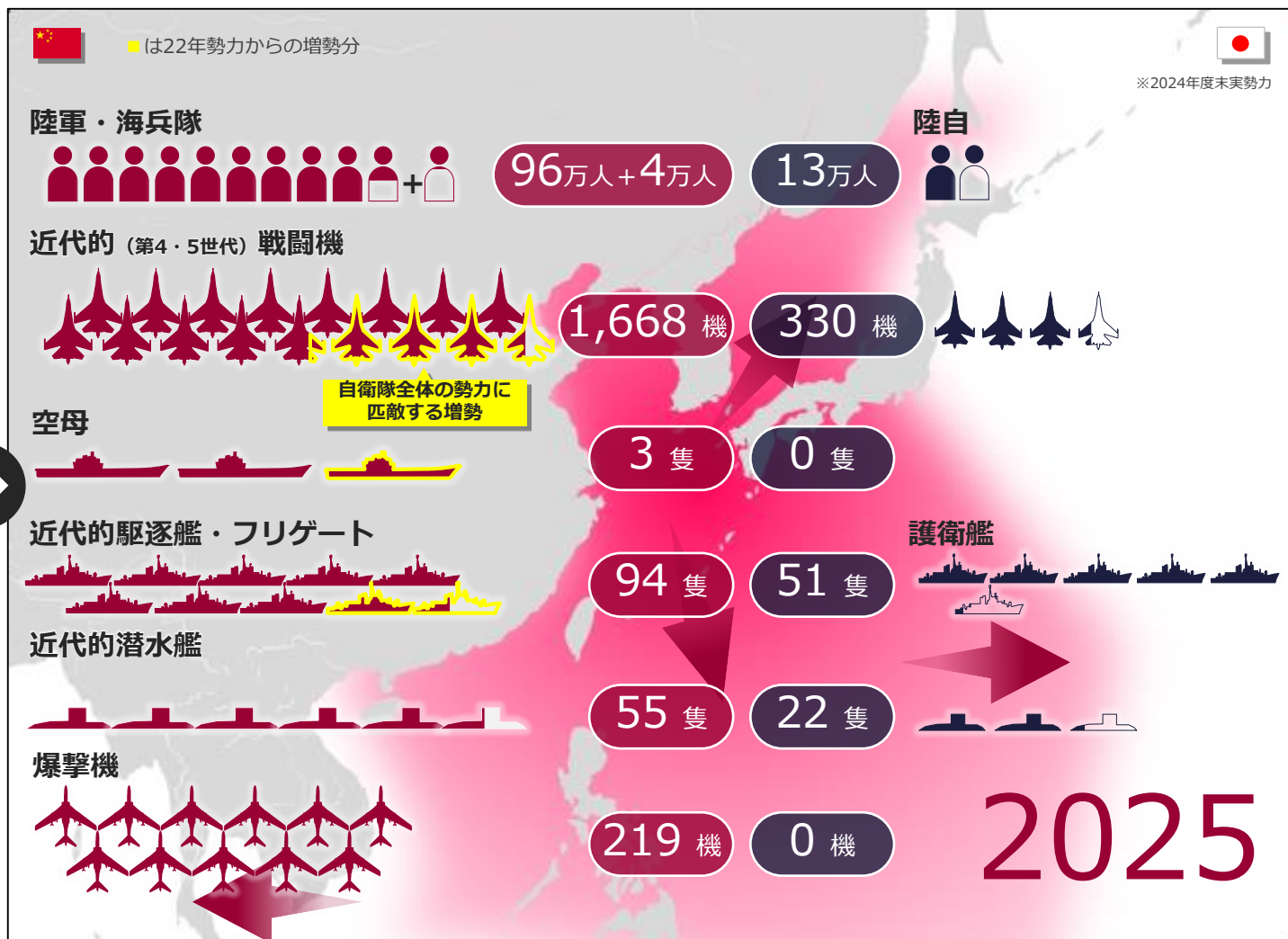
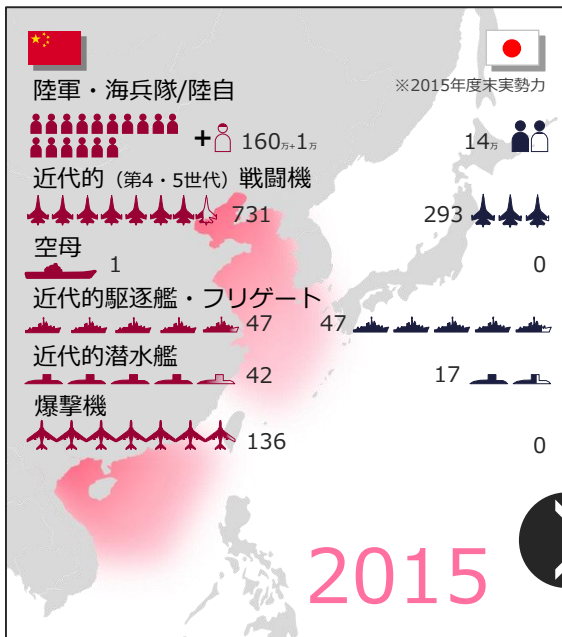
(注) 「国防費」は、「中央一般公共予算支出」（2014年以前は「中央財政支出」と呼ばれたもの）における「国防予算」額。「伸び率」は、対前年度当初予算費。16年度および18～26年度は「中央一般公共予算支出」の一部である「中央本級支出」における国防予算のみが公表されたため、その数値を「国防費」として使用。

※1 日本の防衛関係費（約8兆8,093億円）は、SACO関係経費、米軍再編関係経費のうち地元負担軽減分に係る経費等を除いたもの。
※2 円換算は各年度の出納官更レートで計算。前年度比の数値は中国公表値による。

軍事力強化と活動の拡大・活発化

海上・航空戦力や核・ミサイル戦力を中心とした**軍事力を広範かつ急速に強化**。
 海空域での活動を急速に**拡大・活発化**。一方的な活動のエスカレーションも。

日中の勢力比較及び中国軍の活動範囲(イメージ)(2015→2025)



- Topic 1 空母の硫黄島以東での活動(25年6月)
- Topic 2 台湾周辺での大規模な軍事演習を含む活動の活発化(22年～)
- Topic 3 無人機の太平洋側での頻繁な活動(21年～)

(参考) わが国周辺に所在する米軍勢力(2025)

※在日・在韓米軍所属の陸軍・海兵隊及び戦闘機、第7艦隊所属の空母、巡洋艦・駆逐艦及びグアム・ハワイを拠点とする潜水艦



(注) 資料は、ミリタリーバランス(2025)、Janes Fighting Ships 2024-2025などによる。



02

東シナ海・太平洋・日本海での活動

東シナ海での活動

東シナ海においては、**中国軍艦艇が継続的かつ活発に活動。尖閣諸島に近い海域で恒常的に活動。**
中国軍機も、尖閣諸島や沖縄本島をはじめとする、南西諸島により近接した空域で活発に活動。

中国軍機の活動

【中国軍機の活動】

警戒監視や空中警戒待機（CAP）、訓練と考えられるものや、「東シナ海防空識別区」の運用を企図している可能性があるものも。

【情報収集機の活動】 我が国領海上空を領空侵犯

- 2024年8月： Y-9 情報収集機

尖閣諸島周辺での活動

中国軍艦艇は**尖閣諸島に近い海域で恒常的に活動。**

- (2016年6月) ジャンカイI級フリゲート1隻が接続水域に入域 (戦闘艦艇としては初)
- (2022年7月) ジャンウェイII級フリゲート1隻が接続水域に入域



ジャンウェイII級フリゲート

(2018年1月) 潜水航行をしていた中国軍潜水艦とジャンカイII級フリゲートが尖閣諸島周辺の接続水域内に入域

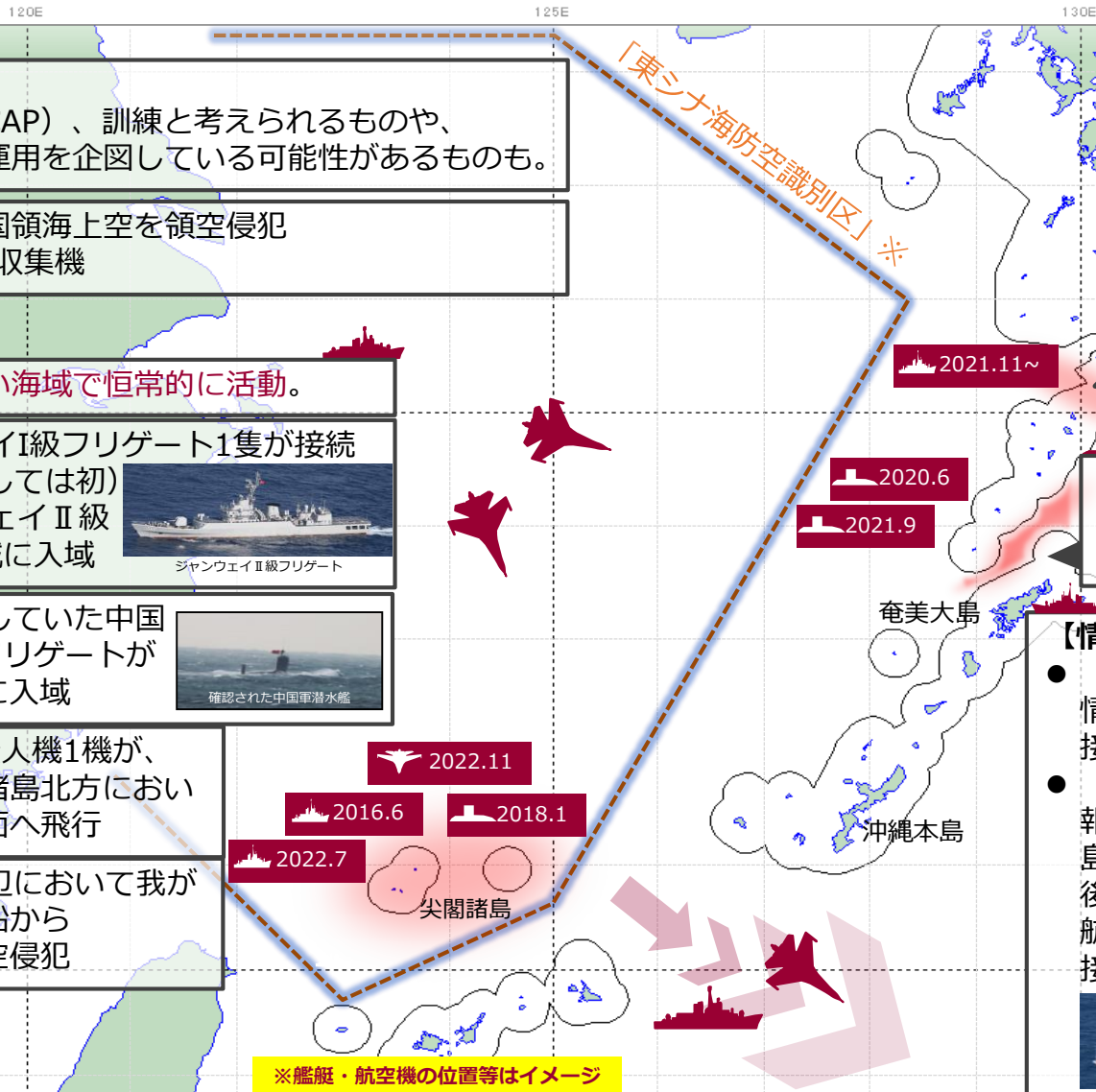


確認された中国軍潜水艦

(2022年11月) 推定中国無人機1機が、東シナ海から飛来し、尖閣諸島北方において一時南進した後、大陸方面へ飛行

(2025年5月) 尖閣諸島周辺において我が国に領海侵入した中国海警船から発艦したヘリコプターが領空侵犯

※艦艇・航空機的位置等はイメージ



【測量艦の領海内航行】

2021年11月以降、シュパン級測量艦が、屋久島等付近の領海内を繰り返し航行

- ①21年11月 ②22年04月 ③22年07月
- ④22年09月 ⑤22年11月 ⑥22年12月
- ⑦23年02月 ⑧23年06月 ⑨23年09月
- ⑩24年08月



シュパン級測量艦

(2020年6月) (2021年9月) 奄美大島周辺の接続水域において推定中国国籍の潜水艦の潜水航行

【情報収集艦】

- (2015年11月) ドンディアオ級情報収集艦1隻が尖閣諸島南方の接続水域の外側の海域を往復航行
- (2016年6月) ドンディアオ級情報収集艦1隻が、口永良部島と屋久島付近のわが国領海内を航行した後、北大東島北方の接続水域内を航行し、その後、尖閣諸島南方の接続水域の外側を東西に往復航行



ドンディアオ級情報収集艦

※「東シナ海防空識別区」は、当該空域を飛行する航空機に対し、中国国防部の定める規則を強制し、これに従わない場合は、中国軍による「防衛的緊急措置」をとるとしていることなど、国際法上の基本的な規則である公海における上空飛行の自由の原則を不当に侵害する形で、中国が独自の主張に基づき設定

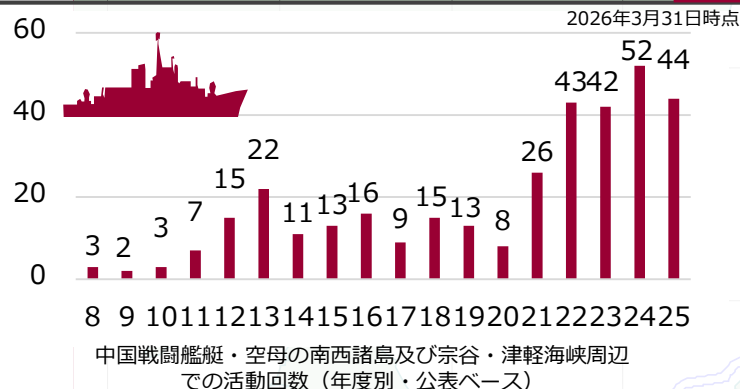
太平洋への進出

中国海軍の戦闘艦艇による太平洋への進出は、高い頻度で継続。
航空戦力については、2017年以降、沖縄本島・宮古島間の空域の通過を伴う太平洋進出が一層活発。同空域を通過する軍用機（無人機を含む）の種類や飛行形態も多様化の傾向。

中国艦艇の太平洋進出

【戦闘艦艇】

- 中国海軍艦艇は高い頻度で太平洋へ進出
- 進出経路は多様化
 - ① 宗谷海峡、② 津軽海峡、③ 大隅海峡、④ 奄美大島・横当島間、⑤ 沖縄本島・宮古島間、⑥ 与那国島・西表島間、⑦ 与那国島・台湾間



中国軍空母の太平洋進出

【空母「遼寧」】

2016年以降、計13度の進出を確認。艦載機等の発着艦を頻繁に確認

- | | |
|------------|---------------|
| ① 2016年12月 | ⑨ 2024年 9月 |
| ② 2018年 4月 | ⑩ 2024年10月 |
| ③ 2019年 6月 | ⑪ 2025年 5月~6月 |
| ④ 2020年 4月 | ⑫ 2025年 12月 |
| ⑤ 2021年 4月 | ⑬ 2026年 5月 |
| ⑥ 2021年12月 | |
| ⑦ 2022年 5月 | |
| ⑧ 2022年12月 | |

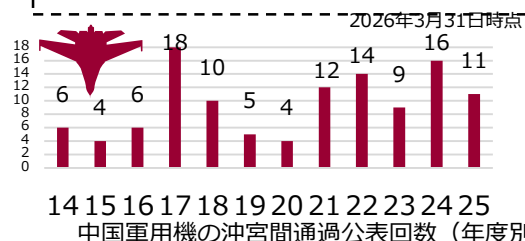


空母「遼寧」

中国軍機の太平洋進出

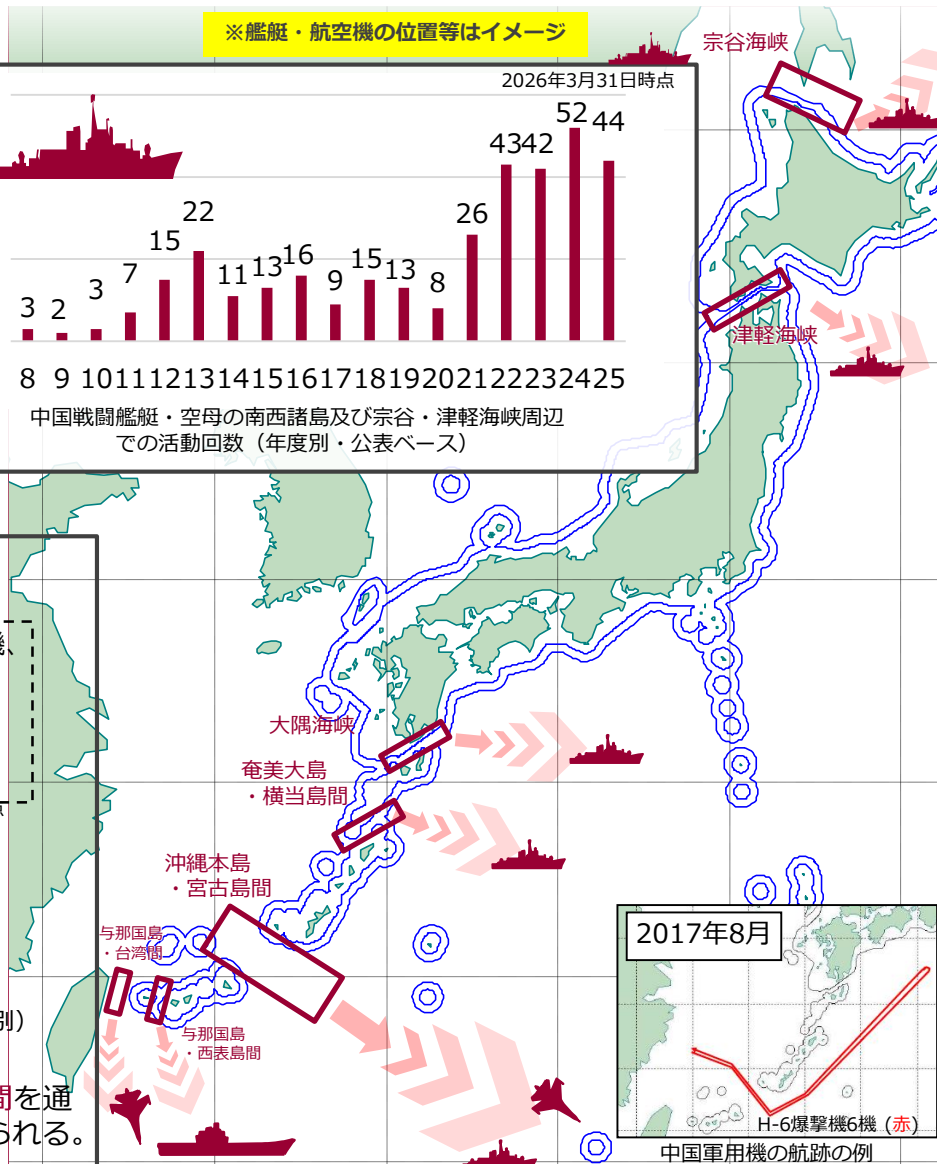
【沖縄本島-宮古島間を通過】

- 機種や飛行経路が多様化
- Y-8早期警戒機／情報収集機／電子戦機、Y-9情報収集機/哨戒機、Tu-154情報収集機、H-6爆撃機、Su-30戦闘機、TB-001偵察/攻撃型無人機、BZK-005偵察型無人機、WZ-7偵察型無人機



【無人機の活動】

沖縄本島・宮古島間、与那国島・台湾間を通過して太平洋へ進出する例が頻繁に見られる。



【空母「山東」】

2023年以降、計9度の進出を確認。いずれも艦載機の発着艦を確認。

- | | |
|------------|-------------|
| ① 2023年 4月 | ⑤ 2024年 8月 |
| ② 2023年 9月 | ⑥ 2024年11月 |
| ③ 2023年10月 | ⑦ 2025年4月上旬 |
| ④ 2024年 7月 | ⑧ 2025年4月下旬 |
| | ⑨ 2025年6月 |



空母「山東」

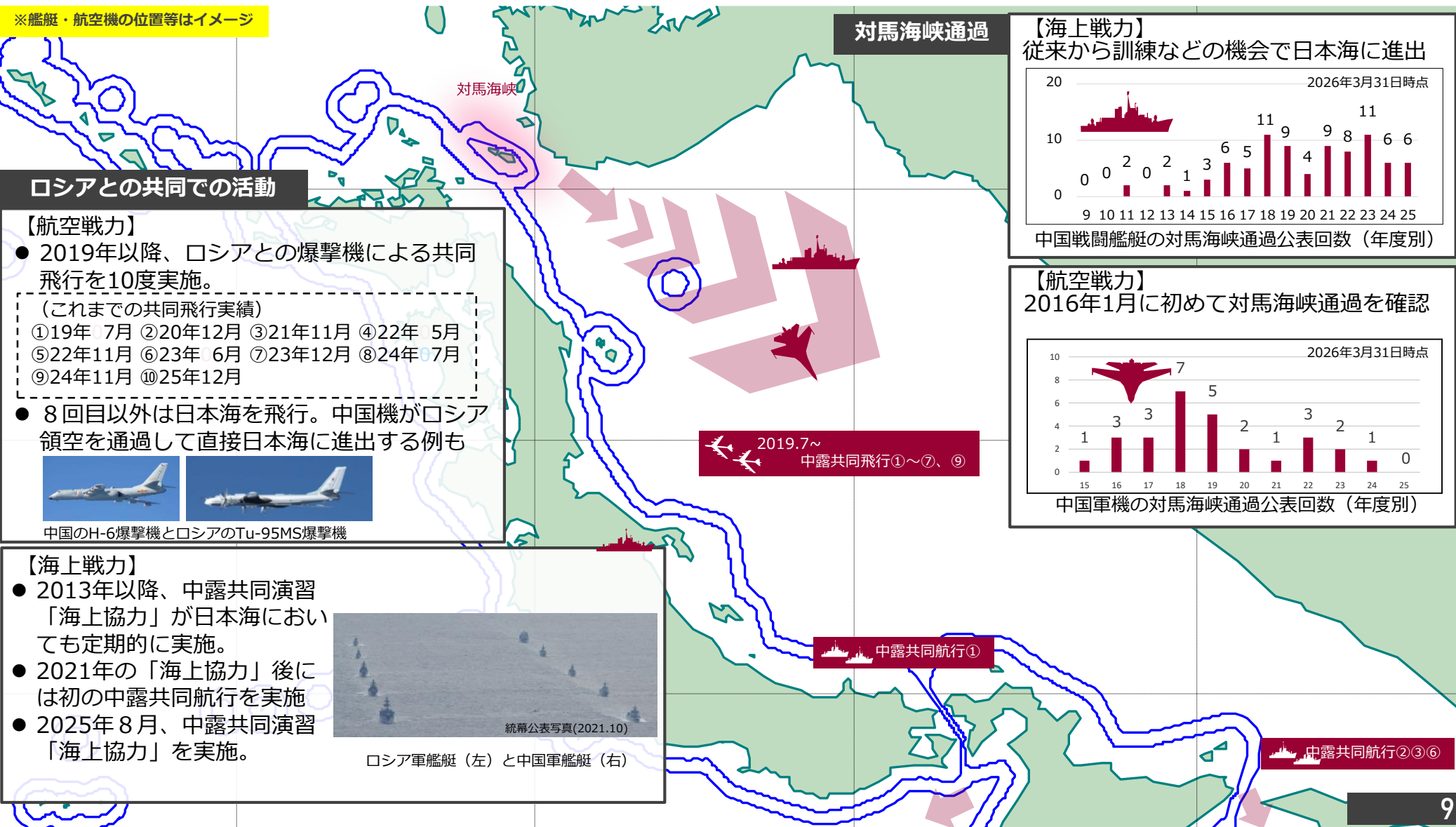
日本海での活動

日本海においては、**海上戦力・航空戦力の活動が活発化。**

海上戦力は、従来から訓練などの機会で日本海に進出。情報収集艦による対馬海峡の通過も頻繁に確認。

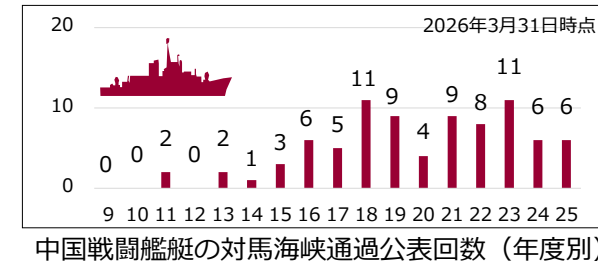
航空戦力は、2016年1月に中国軍機の対馬海峡通過を初めて確認して以降、日本海での活動が活発化。

※艦艇・航空機の位置等はイメージ



対馬海峡通過

【海上戦力】
従来から訓練などの機会で日本海に進出



ロシアとの共同での活動

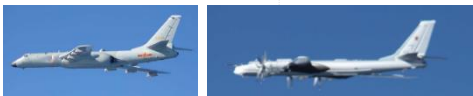
【航空戦力】

- 2019年以降、ロシアとの爆撃機による共同飛行を10度実施。

（これまでの共同飛行実績）

- ①19年 7月 ②20年12月 ③21年11月 ④22年 5月
- ⑤22年11月 ⑥23年 6月 ⑦23年12月 ⑧24年 7月
- ⑨24年11月 ⑩25年12月

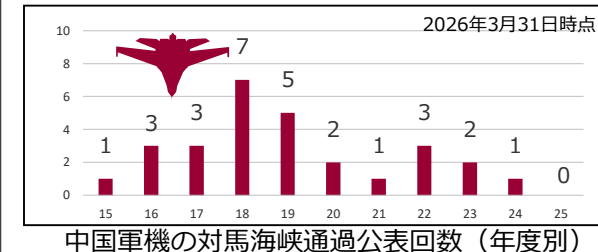
- 8回目以外は日本海を飛行。中国機がロシア領空を通過して直接日本海に進出する例も



中国のH-6爆撃機とロシアのTu-95MS爆撃機

2019.7~
中露共同飛行①~⑦、⑨

【航空戦力】
2016年1月に初めて対馬海峡通過を確認



【海上戦力】

- 2013年以降、中露共同演習「海上協力」が日本海においても定期的に実施。
- 2021年の「海上協力」後には初の中露共同航行を実施
- 2025年8月、中露共同演習「海上協力」を実施。



統幕公表写真(2021.10)

ロシア軍艦艇（左）と中国軍艦艇（右）

中露共同航行①

中露共同航行②③⑥

中国軍空母の動向

中国軍は現在、**3隻の空母**（「遼寧」「山東」「福建」）を保有。
空母の太平洋進出や太平洋上における**艦載戦闘機の発着艦**が頻繁に確認されている。

空母「福建」

※艦艇・航空機の位置等はイメージ

- 25年11月、中国3隻目の空母「福建」が就役。
- 固定翼早期警戒機などを運用可能な電磁カタパルトを装備しているとみられ、艦載機運用能力の向上が指摘されている。



J-15戦闘機のほか、早期警戒機、電子戦機などを含め計約60~70機が搭載可能とされる。



中国軍空母の太平洋進出

空母「遼寧」



2016年以降、計13度の進出を確認。
艦載機等の発着艦を頻繁に確認

- ① 2016年12月(一)
- ② 2018年 4月 (艦載機の飛行を確認)
- ③ 2019年 6月 (一)
- ④ 2020年 4月 (発着艦を確認)
- ⑤ 2021年 4月 (発着艦を確認)
- ⑥ 2021年12月 (発着艦を確認)
- ⑦ 2022年 5月 (発着艦を確認)
- ⑧ 2022年12月 (約320回)
- ⑨ 2024年 9月 (約630回)
- ⑩ 2024年10月 (約140回)
- ⑪ 2025年 5月 (約260回)
- 2025年 6月 (約440回)
- ⑫ 2025年 12月 (約260回)
- ⑬ 2026年 5月 (約170回)

空母「山東」

2023年以降、計9度の進出を確認。
いずれも艦載機の発着艦を確認。

- ① 2023年 4月(約620回)
- ② 2023年 9月(約 60回)
- ③ 2023年10月(約570回)
- ④ 2024年 7月(約420回)
- ⑤ 2024年 8月(約 20回)
- ⑥ 2024年11月(約 20回)
- ⑦ 2025年 4月 1日~2日 (約70回)
- ⑧ 2025年 4月23日~25日(約130回)
- ⑨ 2025年 6月 (約420回)